

TTC標準
Standard

JT-H262

汎用映像符号化方式

Information Technology - Generic Coding of Moving
Picture and Associated Audio Information : Video

第 8.0 版

2015 年 2 月 19 日制定

一般社団法人
情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE



本書は、一般社団法人情報通信技術委員会が著作権を保有しています。
内容の一部又は全部を一般社団法人情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

目 次

<参考>	4
1. 標準の概要	5
2. 本標準で規定する内容.....	6

<参考>

1. 国際勧告等との関係

本標準は、国際電気通信連合電気通信標準化部門（ITU-T）SG16 会合において勧告化された下記[1][2]の ITU-T 勧告に準拠している。

[1] H.262 (02/12) - Information Technology - Generic Coding of Moving Picture and Associated Audio Information : Video

[2] H.262(2012) Amd.1 (03/13) -

2. 上記国際勧告等に対する追加項目等

なし。

3. 改定の履歴

版数	発行日	改版内容
第1版	平成7年11月28日	制定
第1.1版	平成8年2月6日	その他追加
第2版	平成9年4月23日	4:2:2 プロファイル追加、コピーライト登録手続きの追加、本文追加修正
第3版	平成10年11月26日	Multi-view プロファイル、ITU-T 拡張子の追加
第4版	平成11年11月25日	4:2:2 プロファイルに、High レベルの追加
第5版	平成12年11月30日	High レベルの解像度上限変更
第6版	平成13年11月27日	コンテンツディスクリプションデータの追加
第7版	平成22年8月30日	訂正、色空間サポートの追加、新レベルの追加
第8版	平成27年2月19日	改定（簡略標準）ステレオスコープ 3D コンテンツのためのフレームパッキング配置シグナリングの追加

4. 工業所有権

本標準に関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTC ホームページで御覧になれます。

5. その他

(1) 本出版は、具体的な規定内容は含んでいない。規定はすべて準拠元である ITU-T 勧告によっている。具体的な規定内容は ITU-T 勧告を参照する必要がある。

※本標準の第7版までは自己完結していたが、迅速な標準化のため、第8版よりこの形式に改めた。

(2) 参考のため、本標準の第7版までと同様の形式の全文和訳が、TTC 技術レポートとして別途提供されている。その現在の最新版は TR-1056 第1版であり、その内容は ITU-T 勧告 H.262(2000)改正 4 (02/2012)に対応する。

6. 標準作成部門

メディア符号化専門委員会

1. 標準の概要

本標準はテレビ電話・テレビ会議などのオーディオビジュアルシステムに必要な映像符号化方式について規定しており、ITU-T勧告H. 262に準拠している。本標準は、また通信・放送・蓄積の応用を目的とした汎用映像符号化方式であり、ISOの国際規格であるISO/IEC 13818-2と共通の規格である。

ISO/IEC 13818-2に、4:2:2プロファイルとコピーライト登録手続きの追加の改定が、加速手続きによる郵便投票により1996年11月に承認された。これに準拠してJT-H262の改定を行った。(第2版)

ITU-TとISO/IECでの協議により、修正案3(ステレオ画像などのための“Multi-viewプロファイル”と呼ばれる新しいプロファイルの定義)、修正案4(ITU-Tのアプリケーションのための拡張子符号の割り当て)が承認され、1998年1月/2月のITU-T SG16会合でこれらの修正案が決定された。これに準拠してJT-H262の改定を行なった。(第3版)

ISO/IEC JTC1 SC29/WG1において、修正案5(4:2:2プロファイルにHighレベルを追加するための定義)が承認され、1999年2月のITU-T SG16会合でこの修正が決定された。これに準拠してJT-H262の改定を行なった。(第4版)

2000年2月のITU-T SG16会合で、修正案6(Highレベルの解像度上限変更)が承認され、JT-H262の改定を行なった。なお修正案6では記載されていないが、ITU-Tとの確認のもとに以下の付表の最大解像度(V)を「1152」→「1088」に変更を行った。付表E-24, E-25, E-28~E-31, E37~E46, E-49, E-50 (第5版)

2000年ITU-Tは、これまでの修正文書による部分改定ではなく、ITU-T勧告H. 262第2版(ITU-T H.262 | ISO/IEC 13818-2:2000)として、全文改定を行った。なお、TTCでは修正毎に全文改定を行ってきたため、ITU-Tの版番と異なっている。TTC標準JT-H262第5版と、ITU-T勧告H. 262第2版が同一内容である。

2000年11月にITU-T SG16会合において、ITU-T勧告H. 262第2版修正案1(コンテンツディスクリプションデータの追加)及びテクニカル訂正案1が承認され、これによりJT-H262の改定を行った。(第6版)

2006年5月にITU-T SG16会合において、ITU-T勧告H. 262第2版テクニカル訂正案2が承認された。2007年1月にITU-T SG16会合において、ITU-T勧告H. 262第2版修正案2(色空間のサポート)が承認された。2009年3月にITU-T SG16会合において、ITU-T勧告H. 262第2版修正案3(新レベル 1080@50p/60p)が承認された。これらの更新(3件)をまとめてJT-H262の改定を行った。(第7版)

2012年2月にITU-T SG16会合において、ITU-T勧告H. 262第2版修正案4(ステレオスコープ3Dコンテンツのためのフレームパッキング配置シグナリングの追加)が承認された。このITU-T Rec. H.262(2000) Amd.4 (02/2012)[Ed.2.6版]は未発行文書としてのみ入手可能であったが、それは正式発行以前にITU-T Rec. H.262(02/2012)[Ed.3版]により置換されたためである。

2013年3月にITU-T SG16会合において、ITU-T勧告H. 262第3版修正案1(サイドバイサイドフレームパッキング配置に千鳥格子状サンプリング(quinquax sampling)のサポート追加)が承認された。また、ITU-T Rec. H.262(2012) Amd.1 (03/2013)[Ed.3.1版]は分離して発行されなかった。2013年9月に発行されたITU-T Rec. H.262(02/2012)[Ed.3版]に盛り込まれたためである。また2000年版のITU-T Rec. H.262(2000) Amd.4 (02/2012)[Ed.2.6版]から2012年版のITU-T Rec. H.262(02/2012)[Ed.3版]に改版された際にAnnexの章立て構成の組み換え、並びに種々の訂正と明確化を含んで刷新された。

TTC標準JT-H262第8版は、ITU-T勧告H. 262第3版とITU-T勧告H. 262第3版修正案1との改定に対応する簡略標準である。(第8版)

2. 本標準で規定する内容

本標準で規定する内容は下記 ITU-T 勧告による。

[1] H.262 (02/12) - Information Technology - Generic Coding of Moving Picture and Associated Audio Information : Video

[2] H.262(2012) Amd.1 (03/13) -